

経済透視



92

駐車場DX

2023年8月30日掲載

駐車場のデジタル変革(DX)が進展している。駐車場の契約情報や満車、空車などの利用状況がデジタル化、オンライン化されることで利用者の利便性向上やオーナー、管理会社の業務効率化につながっている。また、駐車場設備や機材にセンサーやカメラを設置し、AI(人工知能)、IoT(モノのとりわけ月極駐車場は

DXへの期待が高いと推測できる。現在でも全国の多数の月極駐車場が、利用されることで、従来の大がかりな機械は不要になる。これらのことでの開設や運営に係るコストの削減効果も期待できる。

DXへの期待が高いとた看板のみだ。利用希望者は自宅の周りを歩き回って駐車場を探して、契約手続きは対面で紙ベースが多いのが現状だ。

空車情報把握で利用最適化



SMBBC日興証券
プライベート・キャピタル・ソリューション室
山岡 弘明

場オーナーや管理会社にとっても業務負担が大きい。しかし、月極駐車場は住居用不動産などと比べて単価や収益性が低い。従つて積極的な投資対象ではな

く、業務効率化が進んでも、業務効率化が進んでこなかつた。

このように駐車場DXは、検索システム「アットパーク」において移動の最適化を支援するクラウド型

MaaS(乗り物のサブスクリプション)の側面も有

する。また、MaaSによって移動の最適化が志向される中、駐車場が移動のハブとして重要な役割を果たすことを受けて、近年では新たなサービスが登場している。ハッチ・ワークや契約の効率化などのことはもちろん、駐車場DXが進めば全国の駐車場情報をデジタル化・オンライン化されることは欠かせない。

※日刊工業新聞社から著作権の許諾を受けている。

無断転載・複写禁止